

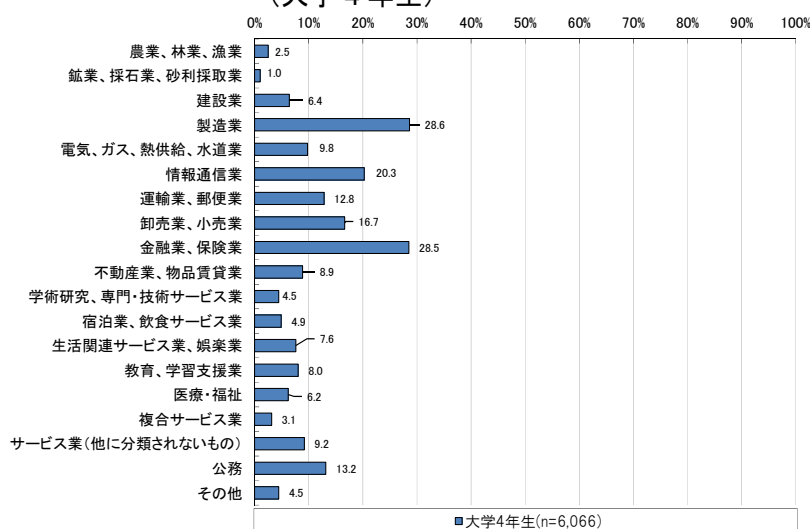
第7章 就職予定の企業の業界別の集計

①志望業界・就職予定の企業の業界に関する回答状況

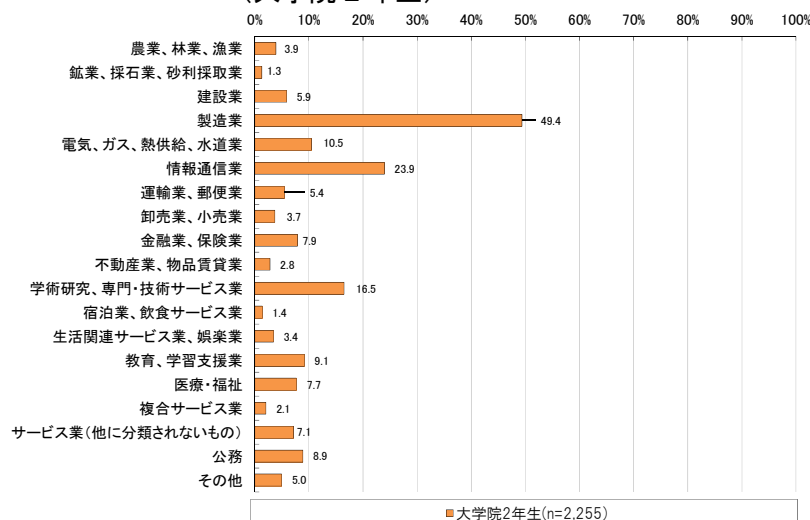
就職活動を行うにあたり志望していた（志望している）就職先の業界について⁷⁰、大学4年生では「製造業」「金融業、保険業」「情報通信業」「卸売業、小売業」の順、大学院2年生では、「製造業」「情報通信業」「学術研究、専門・技術サービス業」の順で回答割合が高くなっている（図表 7-1-1）。

また、内々定を受けた者に関して、就職予定の企業の業界をみると⁷¹、大学4年生では「金融業、保険業」「製造業」「情報通信業」、大学院2年生では「製造業」「情報通信業」「学術研究、専門・技術サービス業」の順で回答割合が高くなっている（図表 7-1-2）。

図表 7-1-1 志望業界（複数回答）
（大学4年生）



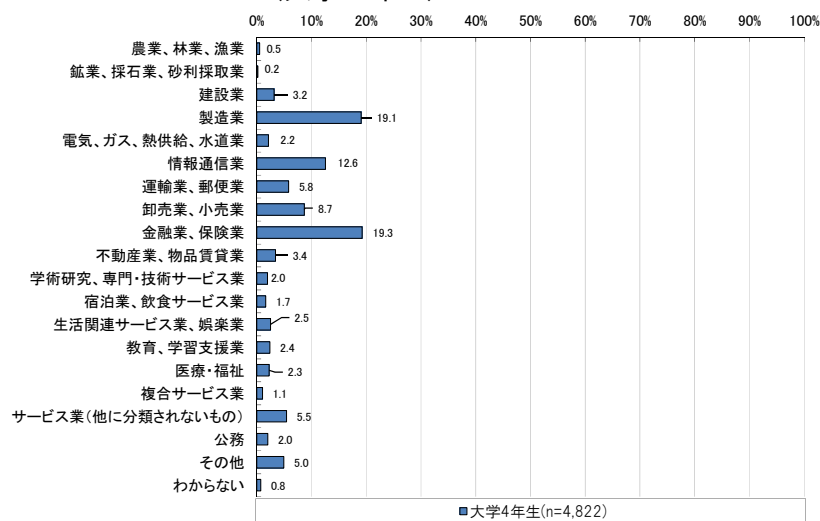
（大学院2年生）



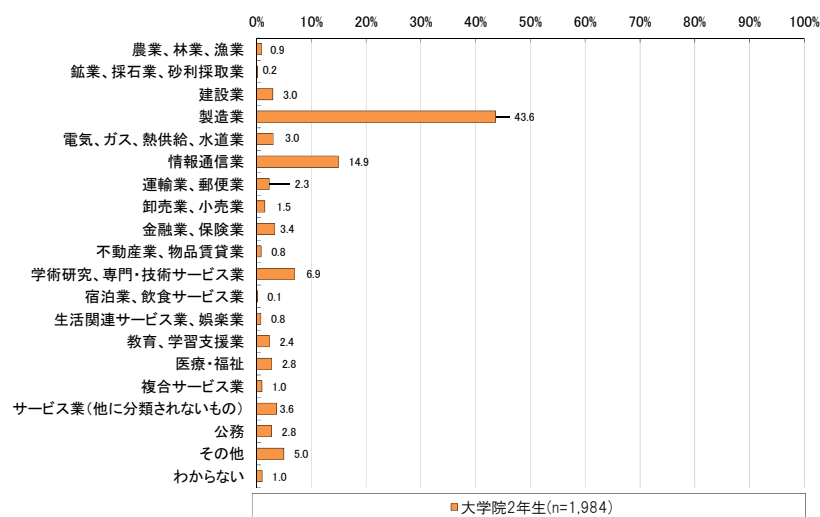
⁷⁰ この設問の対象は、「就職活動を行った（終えた）」「就職活動を行っている（継続している）」「これから就職活動を行う予定である」と回答した者であったが、ここでは、「就職活動を行った（終えた）」「就職活動を行っている（継続している）」とした者のみを集計対象とした。

⁷¹ 図表 7-1-1 に掲載した集計結果は、志望していた就職先の業界について該当するものをすべて回答してもらったものであるのに対し、図表 7-1-2 に掲載した集計結果は、就職予定の企業について選択肢よりひとつのみ回答する方式によるものである。なお、第7章における図表 7-2-1 以降の集計は、就職予定の企業の業界に関する回答を基に分類して行ったものである。

図表 7-1-2 内々定を受けた就職予定の企業の業界
(大学4年生)



(大学院2年生)



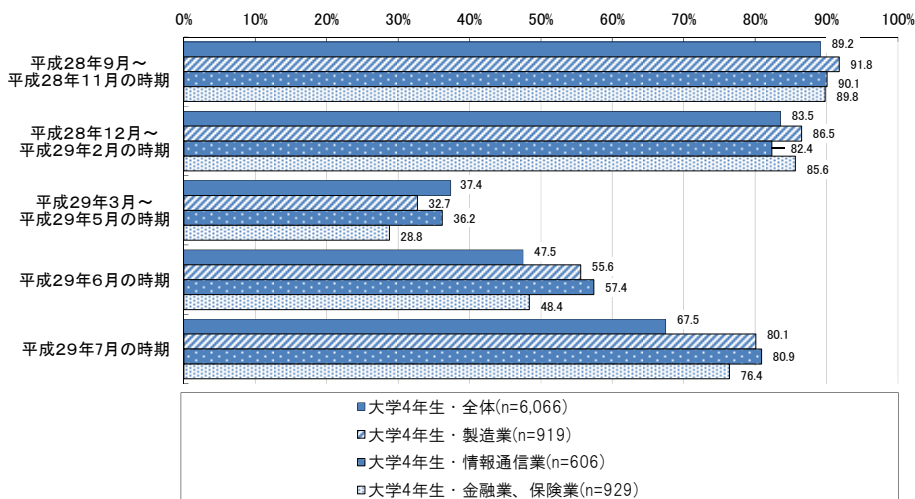
②就職予定の企業の業界別の就職活動と学修時間確保の状況

就職予定の企業の業界について該当する学生の割合が高い3業種(大学4年生に関しては「製造業」「情報通信業」「金融業、保険業」の3業種、大学院2年生に関しては「製造業」「情報通信業」「学術研究、専門・技術サービス業」の3業種)に着目し、それぞれの就職活動の状況等に違いがあるかについて集計した。

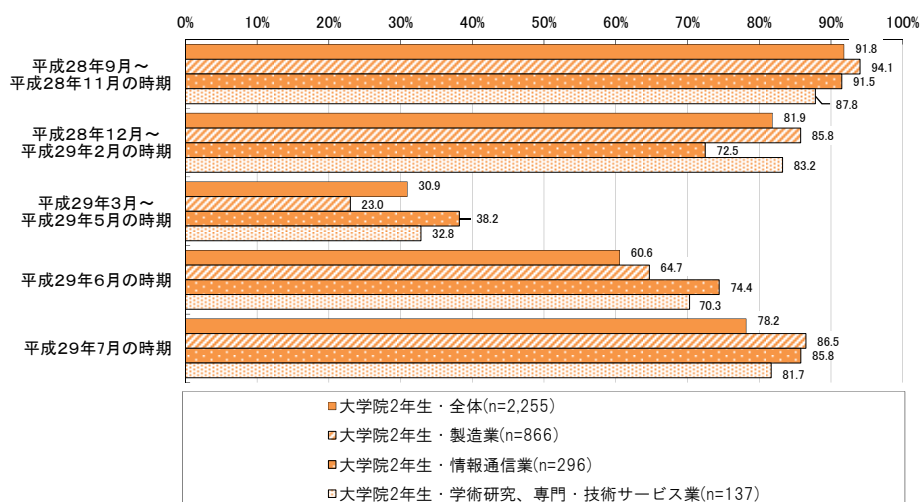
就職活動と学修時間確保の状況について、「十分学修時間を確保できた」、「必要な学修時間は確保できた」、「一定の学修時間は確保できた」のいずれかを回答した割合について、大学4年生では、就職予定の企業の業界が「製造業」や「情報通信業」の者では全体と比較して、平成29年6月以降には「学修時間を確保できた」との回答割合が高い傾向がある(図表7-2-1)。

大学院2年生では、就職予定の企業の業界が「情報通信業」の者は「平成28年12月～平成29年2月の時期」に「学修時間が確保できた」との回答割合が若干低いが、3月以降は比較的高くなっている。就職予定の企業の業界が「製造業」の者は、「平成29年3月～平成29年5月」に「学修時間が確保できた」との回答割合が低くなっている。

図表 7-2-1 就職予定の企業の業界別の就職活動と学修時間確保の状況
(大学4年生)



(大学院2年生)

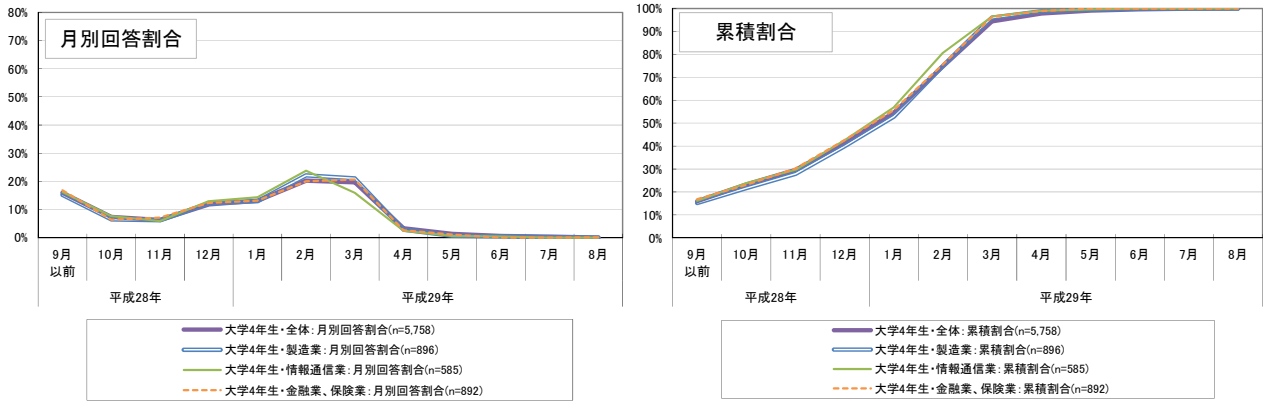


※就職活動との関係で学修時間の確保ができたかどうかをたずねた設問について、「就職活動の影響をほとんど受けることなく十分学修時間を確保できた」「就職活動に少し時間を割くことがあったが、必要な学修時間は確保できた」「就職活動に時間を割くことがあったが、一定の学修時間は確保できた」のいずれかを回答した割合

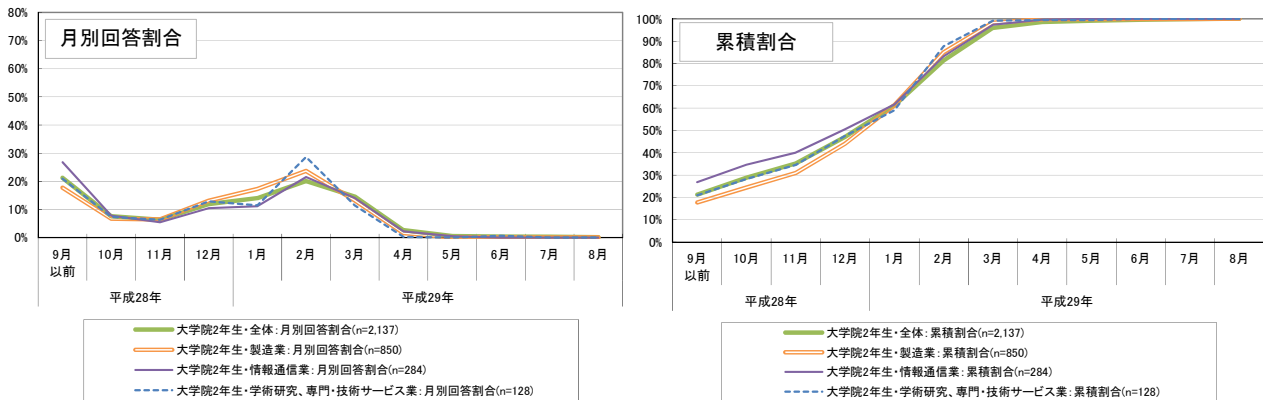
③就職予定の企業の業界別の業界や企業に関する分析を開始した時期

就職予定の企業の業界別に、いつごろから業界や企業に関する分析を開始したかをみると、大学4年生・大学院2年生ともに、「情報通信業」の者では、全体と比べてより早期の回答割合が若干高くなっている（図表7-3-1）。

図表7-3-1 就職予定の業界別の業界や企業に関する分析を開始した時期
(大学4年生)



(大学院2年生)



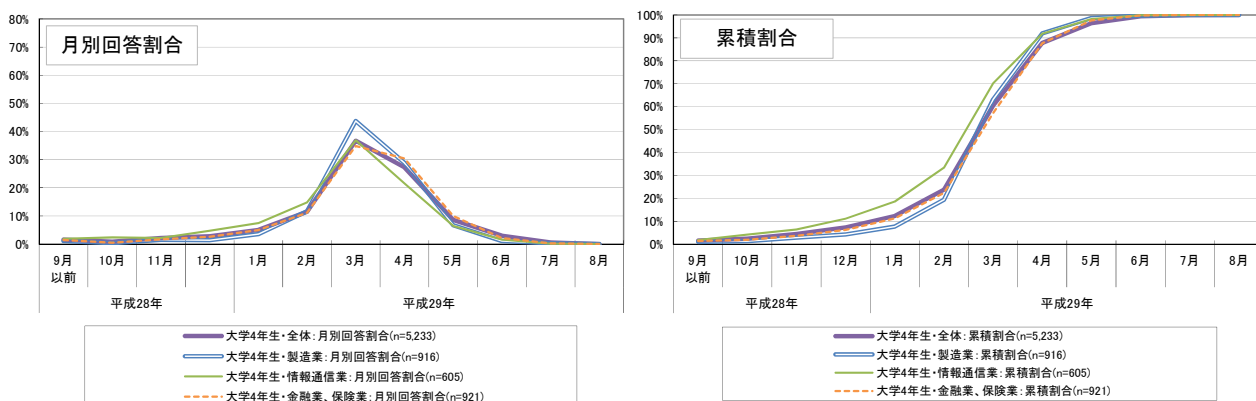
④就職予定の企業の業界別の採用面接の実施時期

採用面接⁷²の時期について、「最初に受けた採用面接の時期」「採用面接のピーク」「最後に受けた採用面接の時期」をそれぞれ就職予定の企業の業界別に集計した⁷³。

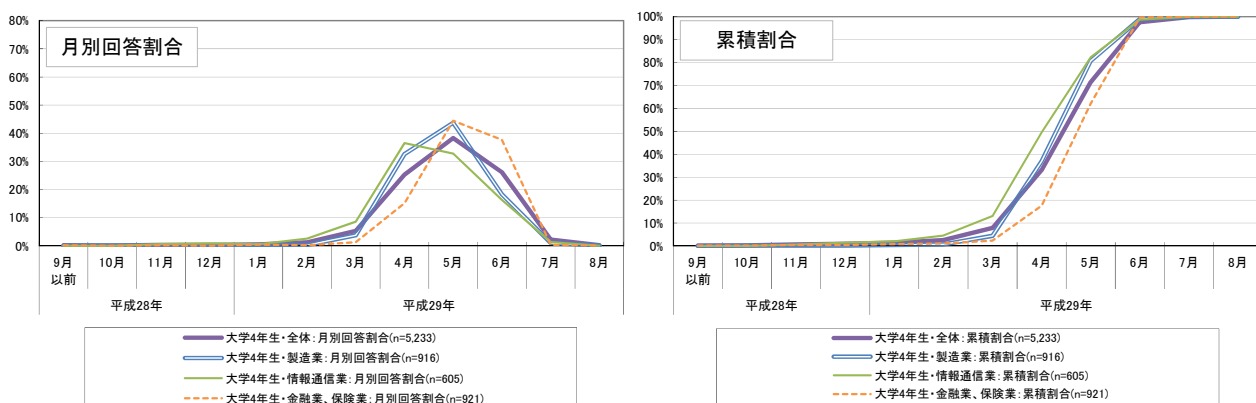
大学4年生では、「情報通信業」の者で「最初に受けた採用面接の時期」「採用面接のピーク」「最後に受けた採用面接の時期」のいずれについても全体と比較してより早期の回答割合が高い（図表 7-4-1）。また、「金融業、保険業」の者では「採用面接のピーク」「最後に受けた採用面接の時期」についてより遅い時期の回答割合が高くなっている。なお、採用面接の企業数の平均値は、「製造業」の者が12.6社、「情報通信業」の者が11.5社、「金融業、保険業」の者が12.8社であった。

大学院2年生では、「情報通信業」の者や「学術研究、専門・技術サービス業」の者で「最初に受けた採用面接の時期」「採用面接のピーク」「最後に受けた採用面接の時期」のいずれについてもより早期の回答割合が高い（図表 7-4-2）。また、「製造業」の者では「最初に受けた採用面接の時期」「採用面接のピーク」についてより遅い時期の回答割合が高くなっている。なお、採用面接の企業数の平均値は、「製造業」の者が7.7社、「情報通信業」の者が7.4社、「学術研究、専門・技術サービス業」の者が7.6社であった。

図表 7-4-1 大学4年生の就職予定の企業の業界別の採用面接の実施時期（公務員・教職員志望者除く）
 <最初に受けた採用面接の時期>



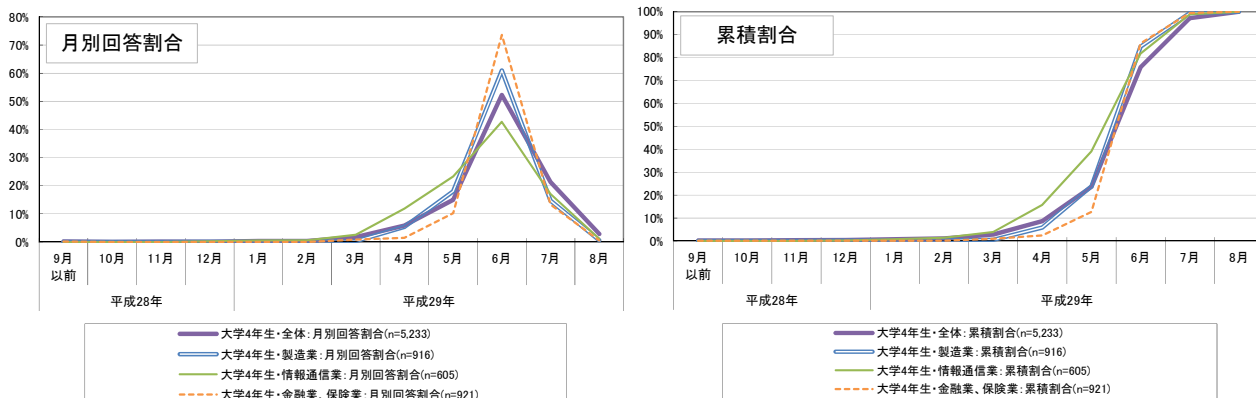
<採用面接のピーク>



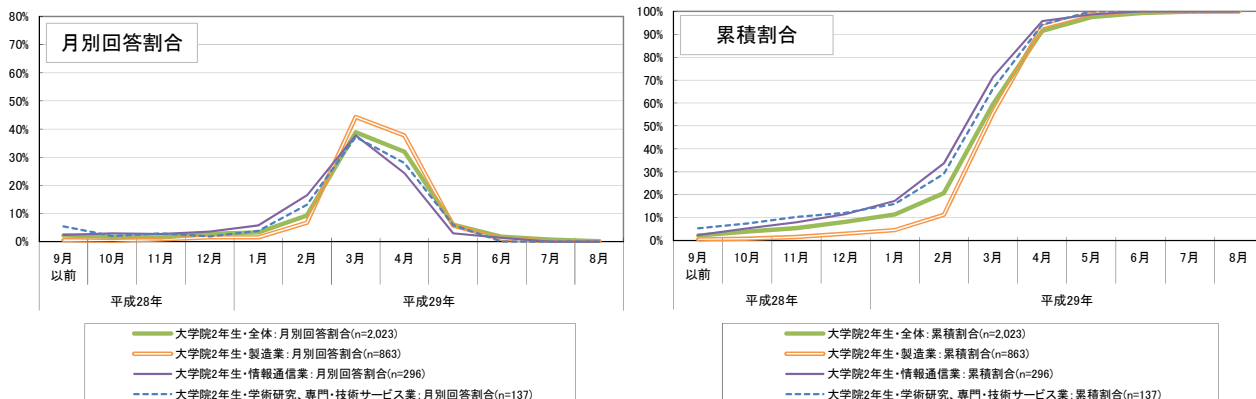
⁷² 採用面接に関して、「面談」や「相談会」などの名称の下に行われた企業との接触について、それが実質的に採用面接だと感じた場合は、採用面接と考えていただくよう回答者に案内した上で調査を行った。なお、ここでの「採用面接」は就職予定の企業のものに限らない。

⁷³ 採用面接について「特段行わなかった」と回答した者は、集計の対象外とした。

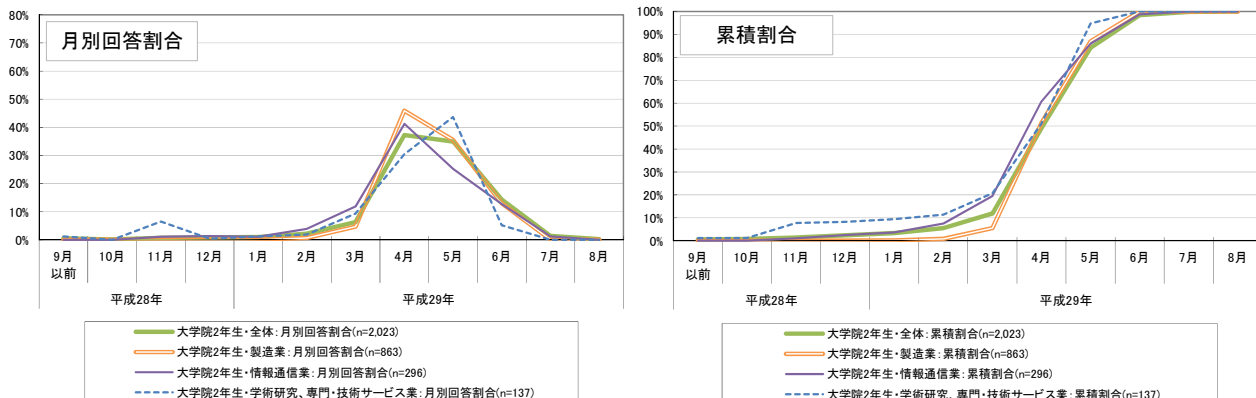
図表 7-4-1 大学4年生の就職予定の企業の業界別の採用面接の実施時期（公務員・教職員志望者除く）
 <最後に受けた採用面接の時期>



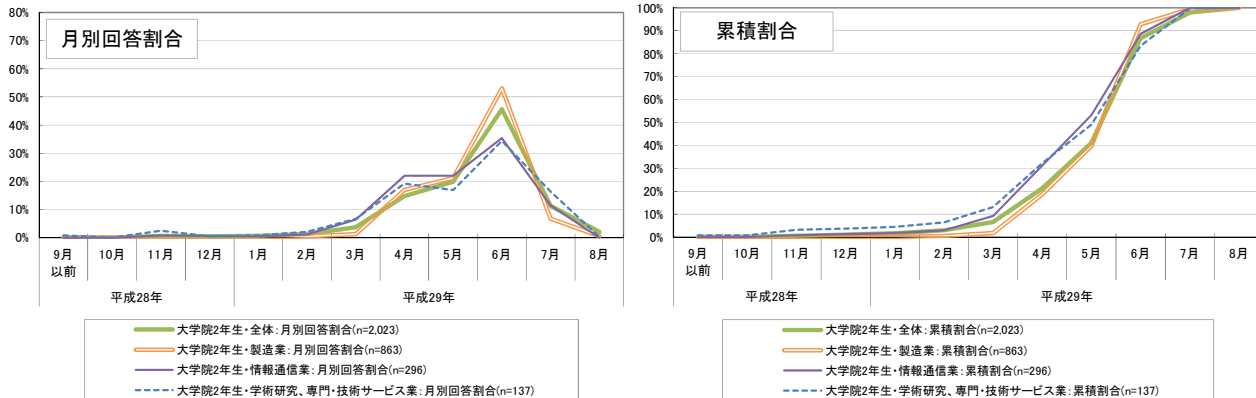
図表 7-4-2 大学院2年生の就職予定の企業の業界別の採用面接の実施時期（公務員・教職員志望者除く）
 <最初に受けた採用面接の時期>



<採用面接のピーク>



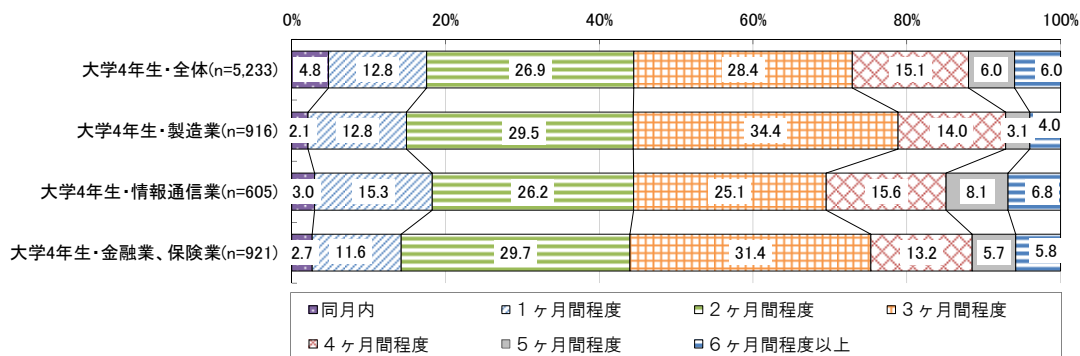
<最後に受けた採用面接の時期>



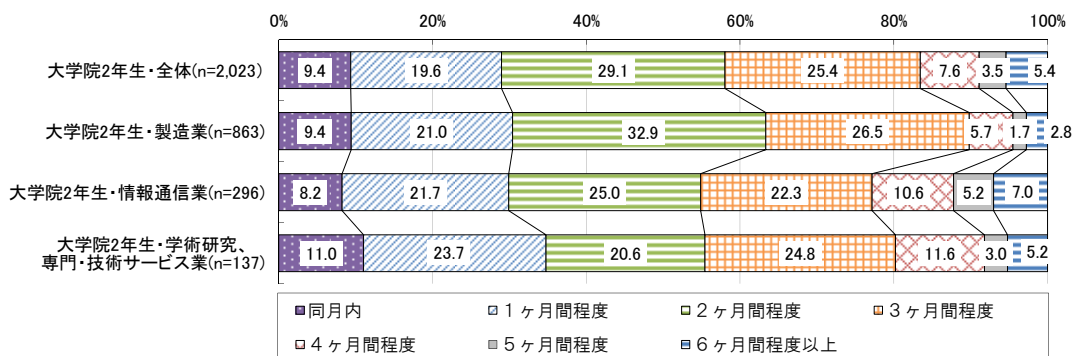
⑤就職予定の企業の業界別の最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間

「最初に受けた採用面接の時期」⁷⁴から「最後に受けた採用面接の時期」の間の期間⁷⁵について、就職予定の企業の業界別に集計すると⁷⁶、大学4年生・大学院2年生ともに、「情報通信業」の者では最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間が「4ヶ月間程度」以上と比較的期間が長かった割合が高くなっている（図表7-5-1）。また、大学4年生・大学院2年生ともに、「製造業」の者では「4ヶ月間程度」以上の割合が比較的低くなっている。

図表 7-5-1 就職予定の企業の業界別の最初に受けた採用面接から最後に受けた採用面接までの期間
(大学4年生)



(大学院2年生)



⁷⁴ 採用面接に関して、「面談」や「相談会」などの名称の下に行われた企業との接触について、それが実質的に採用面接だと感じた場合は、採用面接と考えていただくよう回答者に案内した上で得られた回答である。なお、ここでの「採用面接」は就職予定の企業のものに限らない

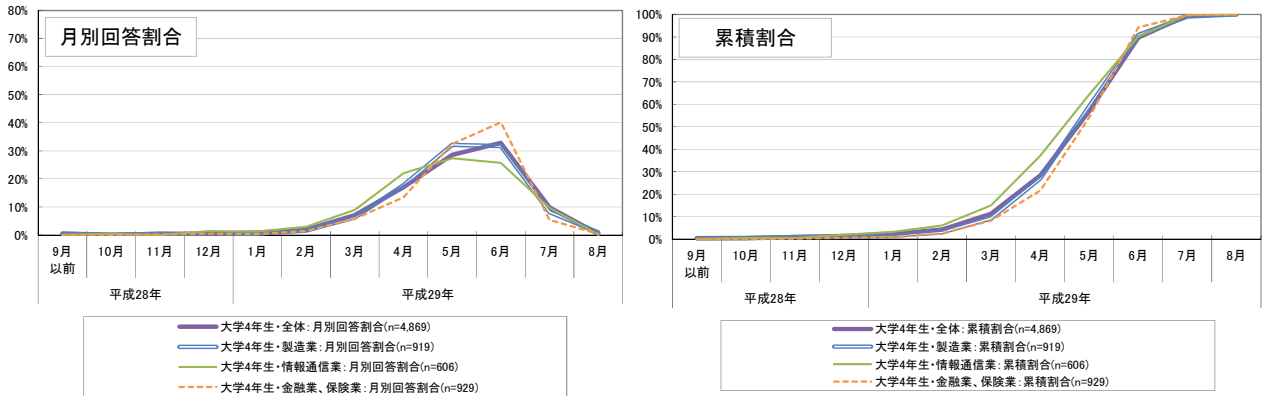
⁷⁵ ここでの集計において、「3ヶ月間程度」とは、例えば、「最初に受けた採用面接の時期」が3月、「最後に受けた採用面接の時期」が6月というように、両者の差が3ヶ月であることを意味する。したがって、「1ヶ月間程度」の分類には、最短で2日間、最長で約60日間の場合が含まれる。一方で、「同月内」の場合であっても実質的には最長で30日間である可能性もある。なお、最初と最後の月から計算しており、途中の期間に就職活動を行っていない可能性があるなど、必ずしも採用面接を受けていた実際の期間を意味するものではない点に留意が必要である。

⁷⁶ 採用面接について「特段行わなかった」と回答した者は、集計の対象外とした。

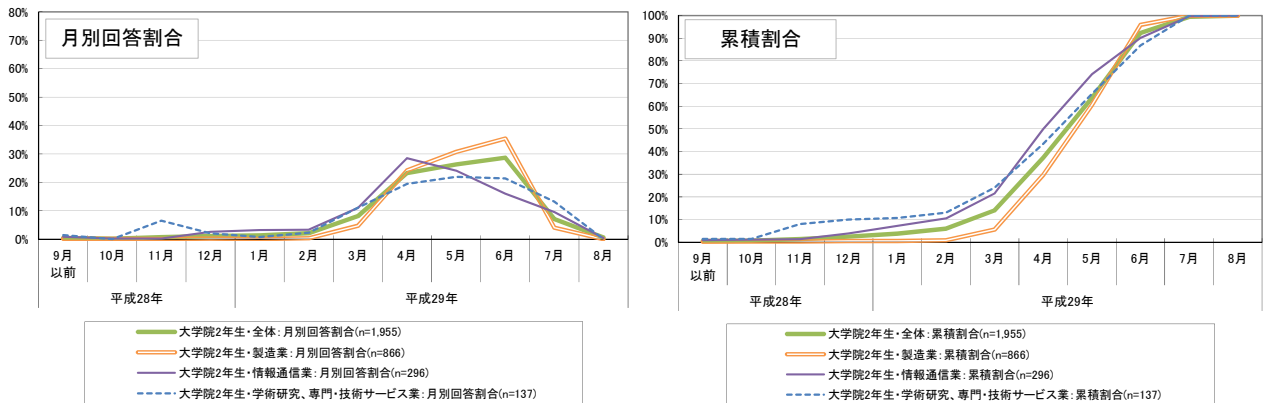
⑥就職予定の企業の業界別の内々定を受けた時期

内々定を受けた時期について就職予定の企業の業界別にみると⁷⁷、大学4年生・大学院2年生ともに、「情報通信業」の者では、より早い時期に内々定を受けた割合が比較的高くなっている（図表 7-6-1）。

図表 7-6-1 就職予定の企業の業界別の内々定を受けた時期
(大学4年生)



(大学院2年生)



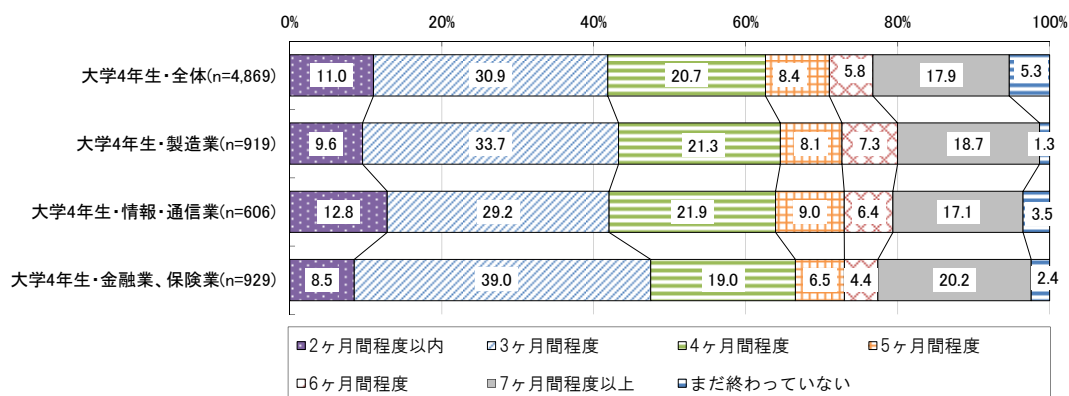
⁷⁷ 1社から内々定を受けた者はその時期について、複数社から内々定を受けた者は最初に内々定を受けた時期について集計した。なお、ここでの「内々定」は就職予定の企業のものに限らない。

⑦就職予定の企業の業界別の就職活動の始まりから終わりまでの期間

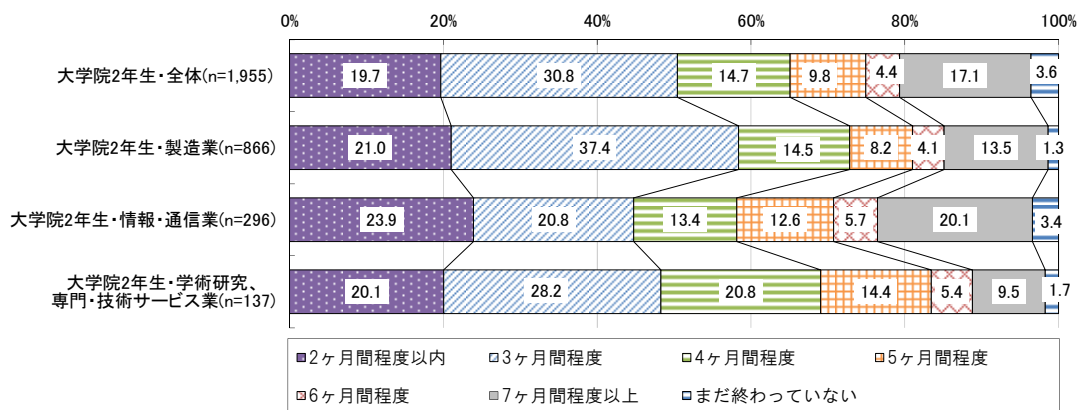
「就職活動が始まったと考える時期」から「就職活動が終わったと考える時期」の間の期間について就職予定の企業の業界別に集計すると、大学4年生では「金融業、保険業」の者で「3ヶ月間程度」など、比較的短い期間の割合が高くなっている（図表 7-7-1）。

大学院2年生では、「製造業」の者で「3ヶ月間程度」の割合が高く、全体と比較して短い期間の割合が高い傾向にある。また、「情報通信業」の者では、期間が「2ヶ月間程度以内」の割合が全体と比較して若干高い一方で、「7ヶ月間程度以上」など長い期間の割合も高くなっている⁷⁸。

図表 7-7-1 就職予定の企業の業界別の就職活動の始まりから終わりまでの期間
(大学4年生)



(大学院2年生)



⁷⁸ ここでの集計において、「3ヶ月間程度」とは、例えば、「就職活動が始まったと考える時期」が3月、「就職活動が終わったと考える時期」が6月というように、両者の差が3ヶ月であることを意味する。したがって、「1ヶ月間程度」の分類には、最短で2日間、最長で約60日間の場合が含まれる。一方で、「同月内」の場合であっても実質的には最長で30日間である可能性もある。なお、最初と最後の月から計算しており、途中の期間に就職活動を行っていない可能性があるなど、必ずしも就職活動を行っていた実際の期間を意味するものではない点に留意が必要である。

